



公益社団法人 岐阜県交響楽団

〒501-3133 岐阜市芥見南山3丁目7の10  
TEL<058>244-0150 FAX 244-0151  
ホームページ <http://www.ktroad.ne.jp/~giky/>

東京開催のプレゼンテーション  
オリンピックがやってきました。

「岐響創立六十年」よくここまで導いて下さいました。共に歩んで来た私は、心から岡本理事長の熱意に敬意を捧げます。私は、岡本さんとは良いご縁を頂戴し、五十年半世紀を夢中でやってきました。「茶道」を学び「能楽」のご指導をいただき、その中から岡本家四百五十年の経営哲学にふれさせてくださいたいと思います。私ぐらい幸せな男はいないと思っております。その岡本太右衛門さんの徳望があつてこそ今日の岐響の姿です。メンバーの皆さん感謝を捧げようではありませんか。



**「創立六十周年を迎えて」**

公益社団法人岐阜県交響楽団  
副理事長(運営委員長) 辻 正

私の会社の社歌をつくっていただきます。毎朝社員と共に歌っております。ありがとうございます。私たちICT業界

は大成功でした。私たち日本人には心踊る瞬間だったと思います。高円宮のフランス語、英語の驚く程の説得力、そして滝川さんの「おもてなし」は、グローバルゼーションのお手本でした。私は中国育ちで多少とも国際感覚は持っているつもりでしたが、参りました。

私のお茶室などは情報化社会のルーツではないかとさえ思っております。私たち日本人は伝統文化という「宝」を持っております。オリンピック開催のとき岐響が再びサントリーホールに登場し、岐阜市と友好関係にある諸都市の選手をお迎えし、精一杯おもてなしすることが出来たら最高です。その時この世にいないかも知れない私のささやかな夢です。

私、中小企業団体の役員を務めております。日本の中小企業は世界一だと確信しています。諸外国の皆さんが「どうして日本の中小企業がこんなに実力を持つことができたんだ」と私たちに聞きます。日本の企業数は四百万ありますが、九十七％は中小企業です。このメンバーはその気になれば景気の回復は難しいことではありません。

も日々大変なイノベーションが続いております。情報通信の技術競争だけでなく、プラスチックが必要となりつつあります。岐響の皆さんがマーラーの復活で示された、素晴らしいレベルのオーケストラが岐阜にあるということ、私たちが岐阜県民の誇りであり、国際競争に百万の力を与えてくれます。加えて、岡本さんと協力して完成しました茶室「水月亭」の存在もこれからは役立つことでしょう。昨年始には、韓国の大企業サムソングループの若手技術者が日本文化を学びたいと来ましたので、茶室でおもてなしをしましたが大変喜んでくれました。

私、今後は、岡本理事長はじめメンバー皆様について参ります。共に喜び共に語りながら人生の第四コーナーを歩んで参ります。

株式会社インフォフォーム (会長)

三人の第九、ウィーンの歓喜と涙をうかべながらの思い出をいただきました。もう一度皆様に心からのお礼を申しあげ筆で擱きます。

岡本理事長も、私も岐阜市民榮譽賞をいただきました。それは皆さんから授けられたものだと思います。ありがとうございます。ございました。

た人たちです。岐響の六十年の歴史は苦難の連続でしたが、それに耐え弱音をはかず今や日本のアマチュアオーケストラに育ちました。日本のオーケストラの大半は中小規模ですが、岐響はそのお手本です。本当に皆さんよくやって来られました。最高の勲章を差し上げたいと思えます。



岐響創立60周年記念公演 マラー交響曲第2番「復活」を演奏



(2013年11月10日 長良川国際会議場にて)

指揮：井村誠基 ゲストコンサートマスター：若林亜由 ソプラノ：松波千津子 アルト：福原寿美枝

六十周年記念コンサートに寄せて

ゲストコンサートマスター 若林 亜由

六十周年！なんと長い年月でしょう！

練習を続けられた団員の皆さんだけでなく、支え続けてくださった多くの方々のパワーを感じます。

本当におめでとーうございます！

考えてみると、私もウィーン公演の頃からずいぶん一緒させていただきました。

コンサートマスターとして、コンチエルトのソリストとして…六十年の内、私も岐響の歴史の一部をちよつとだけお手伝いできたのでしょうか。とても光栄なことです。

しかし、実は六十周年のコンサートの曲がマーラーの復活と聞いた時は、このお仕事はお断りしよう！と思つたのです。(笑) 絶対無理！

曲目変更しましょう！  
難しいんです、技術的にも音楽的にも！

…でもコンマスとして参加させていただくことになりました。

こりゃタイヘンだー！と思いましたが、コンサートは成功しなくては！  
練習をどうしたらいいのか…。

とにかく私はヴァイオリンの技術的な問題にはアドバイスできます。フィンガリング(左手の指使い)やボウイング(弓の使い方)や奏法…たくさんたくさんアドバイス

スでした。

そして弦楽器の皆さんは本当に立派にさまざまな問題をどんどんクリアしていかれました。こんなに難しい曲なのに！当日までに私の仕事はほとんど終わつたかな、という気持ちでした。

ただ管楽器の技術の問題は、私にはアドバイスできません。どうやったら美しく吹けるかが私に分かるわけがありません。そのことはとても悲しく思いました。

当日はずばらしい演奏でした。  
いえ、技術的にはもちろん完璧ではありません。でもよかった。音楽でした。皆さんが一心に演奏していました。

岐響はときどきそんな音楽の深い感動を私に運んでくださるのです。

これからも困難はいっぱいやつてくるでしょう。演奏でも、そして運営面も。

オーケストラが存続していくのは本当になりたいへんなことだと知っています。

でもこの六十年で築いてきた今を大切に、音楽への愛を根底にいつも持ち続けて、長く長く続けて欲しい…いえきつとそうなると思います。

また百周年記念コンサートに…無理かな(笑)、八十周年記念コンサートに呼んでいただけるよう、私も勉強します。

# 「岐阜県交響楽団と私」

## （交響詩『長良川』を機縁として）

ソプラノ 松波 千津子

創立六十周年誠におめでとうございませう。大切な記念公演であるマーラーの「復活」に、ソリストとして歌わせていただいたことは大変光栄なことであり、心より感謝申し上げます。井村誠貴先生のダイナミックで情熱にあふれる指揮に、オーケストラのメンバー、合唱団、ソリストの気持ちが一つとなつて、集中心力が途切れることなく、魂の息吹が伝わる出色の演奏でした。素晴らしい感動の時間を共に過ごすことができました。

私と岐阜県交響楽団（以下、岐響と略記）との最初の出会いは一九八六年にまさかのほりです。それは岐阜市制百周年記念の演奏会でした。故園伊玖磨先生の指揮で交響詩「長良川」を歌わせていただきました。これを機縁に、岐響とのお付き合いが始まり今日に至ります。あれから三十年近く、時の流れの速さに圧倒されます。

岐響についてお話ししたいことはたくさんあるのですが、私の場合、何とんでも交響詩「長良川」に触れざるをえません。「長良川」はオーケストラとソプラノのための交響詩です。

当時、團先生の葉山のご自宅を田中氏と一緒に訪問しました。市制百周年という特別の機会であるということ、また團先生が作曲者であり自ら指揮されるということから、先生の思い入れも深く、私が歌わせていただけるためには、先生の「テスト」を受け、お眼鏡に適い、ご指導を受けることが大切であると考えていたからです。

團先生とは、その後ご縁があり、愛知県芸術劇場大ホールで團先生の指揮でオペラ「夕鶴」の（へう）の役を演じさせていただきました。その折、先生は最初の出会いを覚えておられ、「あの時の君か」というお言葉をお聞きしました。若手の声楽家にとつて、偉大な先生に記憶に留めていただいていたというだけでも嬉しく、励みに感じたことを今でも覚えております。

その後「お墨付き」をいただけたからではないですが、「長良川」などを通じた岐響と私のお付き合いが深まっていきました。岐阜市とラジール・カンピナス市の姉妹都市提携十周年（岐阜市民会館二十五周年記念、岐阜県民文化祭・飛騨美濃合併百二十周年記念、岐阜青年会議所創立六十周年記念などの公演）そして、一番印象に残っているのは、創立五十周年記念として行われた、わが国の最高の音楽ホール、サントリーホールでの演奏です。岐響による「長良川」の演奏は、指揮者は変わっても、それぞれに趣のある、情緒豊かな素晴らしいものでした。

岐響のめざましい演奏活動は、六十の長きにわたり地域に根ざした音楽文化の振興に情熱をもつて取り組んでこられた団員、関係者の皆さまによって支えられてきたことはすでにご承知の通りです。私も岐響の皆さまには個人的にも以前から、いろいろな方とお付き合いがあり、どなたも音楽への深い情熱をもつ、楽団の運営にはなくてはならない皆さまです。

岐響は全国に例を見ない、楽団員の皆さんが音楽以外の仕事をもつアマチュア・オーケストラから出発しながら、社団法人化や公益社団法人への認定を成し遂げ、独自の練習場を持ち、年に何回ものクオリティの高い定期演奏会、ファミリーコンサートなどの公演を今日まで続けられ、ついには世界最高のホール、ウイーンの楽友会館で五十五周年公演を成功されるまで発展されました。私には、その歩み自体が一つの芸術であるように思えます。素晴らしい公演はもちろん、楽団の目を見張る足跡、それが私たちに感動を与えるからです。六十の歩みに心からの拍手を送りたいと思います。

その背景には、岡本理事長のお言葉をお借りするならば、「各自の音楽技術を向上させ、聴衆に感動を与えるオーケストラになること、地域社会に貢献し、岐阜県の芸術文化のシンボルの存在になること」を目標に研鑽を怠らない楽団員の皆さま、卓抜な組織運営によって楽団を築き上げた役員および関係者の皆さま、そして多方面から熱い応援を寄せられた県、市、各団体、圧倒的なパワーと意気で岐響に元気を与え続けている合唱団の皆さま、そして最後にサポーターとして支えていただいている市民の皆さまのご理解とご協力があったことは言うまでもありません。

繰り返しのようですが、私のこれまでの声楽家としての歩みを見守り育ててくださった岐響の皆さまには心から感謝いたします。岐阜に生まれ育ち、岐阜が大好きな私には、楽団が地域にしっかりと根をおろしながら、全国そして世界へと飛躍しつづける大切な折々に演奏の機会をいただけたことは本当に光栄なことです。齢を重ね



るにつれ愛郷心が募るからなのでしょう、こうしたい思いは益々強くなっています。岡本理事長は、六十年前の岐響創立の際のリーダーの一人である宮崎直一先生の地域の文化のパロメーターは、地域の交響楽団である。オーケストラがしっかりとついている地域は、文化不毛の地域であるとの言葉を引用され、岐響は、地域文化の担い手としての責任と自覚を持たねばならないと思われられておられます。本当にそうだと思います。また、地域文化の担い手としての責任と自覚は、岐響だけでなく、当地で活動する音楽家一人ひとりも担わなければならないものだと思います。一声楽家として、私も歌わせていただける限り、岐響と共に精進していきたいと思えます。

皆さまの益々のご活躍とご健康をお祈りします。創立六十周年、本当におめでとうございます。

# 記念公演に寄せて

『復活』のために結成した、岐響メモリアル合唱団。パトリリーダーの方からお言葉をいただきました。

『これぞ音楽の力』

ソプラノ 日比野 景さん

二〇二三年の二月に井村誠貴先生の指揮でオペレッタ「こうもり」の舞台上にロザリンド役で立たせて頂いた。マエストロが全身で感じている音楽が、指揮をされている手に集まり、指先から溢れ出てくる音楽を感じ、私たちは、それに任せ心から音楽を楽しみながら演奏をすることができた。本当に素晴らしい体験だった。

その先生が岐響でマラー「復活」を振ると聞いた。しかも岐阜県交響楽団六十周年記念！合唱団員募集……え？？六十周年!? 還暦!? これは、岐阜県民として、やるしかないでしょう! ということで即、合唱団員ソプラノパートとして申し込んだ。

私はマラーの二子供の不思議な角笛が大好きで、よく練習曲として歌う。長い息を作るのにとっても効果的でもあるのだ。そう、そして「復活」の中には、この歌曲集の中のメロデーが使われている。それを生のオーケストラで、しかも客席の最前列よりもオケを肌で感じられる特等席で聴く事が出来るのだ。わくわくした。

コーラス練習は六月から始まり、月に二回。あつという間に本番がきた。最後のリハサルの時、井村先生を中心とし、岐響とコーラスが初めて一体となった。全員の意識がその空間を共有し、音が光った。同時に、とてつもなく幸せな感覚がやってきて、音楽と共にいられる事の幸せを心の底から感じられた。普段考えうる悩みなどが、なんでもな

いっつぱけな事に思えたのだ。比喻でもなんでもない、これぞ音楽の力なのだと思ふ……。

今回、このような機会を与えていただけに、感謝を申し上げます。これから、多くの人に音楽の力で勇気を与えて行っていたきたいと願っています。



『岐阜県交響楽団六十周年記念公演「復活」に寄せて』

アルト 片岡 睦美さん

二〇二三年十一月十日、沢山のブラヴォーの声と拍手の嵐の中で、このステージに立て

た事の幸せを感じる私があった。

始まりは新聞でニュースに接した時。でも、仕事や家の事、練習会場の事などで参加に踏み切れずにいる私の背中を、娘が押し付けてくれた。横浜から申し込んでくれたのだ。参加案内が届くと、指揮は三千人の第九でもお世話になった、きつい事を関西弁で薄めてやんわりと、しかし確実に指摘する井村先生。合唱指導は合唱連盟理事長でありながら話し易くて気さくな北野先生。練習ピアノは長良高校の小宮山先生。(小宮山先生のピアノは音色に品があつてとても素敵と評判。)俄然テンションが上がった。しかし、練習が始まってみると復活の経験者などそれ程いるはずもなく、音取りに悪戦苦闘。公募型なので声も何だかバラバラ。練習回数にも限りがある。焦りがつる。その中でも、北野・小宮山両先生の丁寧な指導は勿論、毎回練習に来て下さる岐響の神原先生、藤澤先生、メルや瓦版で鼓舞して下さるチエロの早川先生、とても判りやすい表現で声の出し方を教えて下さった飯沼京子先生、追加練習でご指導頂いたコントラバスの田中先生、一緒に合唱して下さる声楽家の日比野先生と、実に多くの方に支えられて迎えた本番だった。

一楽章が始まった。十二cm幅の板にお尻を預け、合唱の登場まで一時間ほどをひたすら我慢。四楽章の福原先生のソロは流石だ。五楽章、井村先生に集中しながら初めての先生との練習であまりにも酷い合唱の出来に落胆していた先生を思い出す。それでも諦めずに前進することを熱く求めてくれた先生。そんな先生の元で復活への祈りをオケの皆さんと、お尻が痛い筈の合唱団のみならず、松波・福原両先生の美しいソロと井村先生の強い意志と共に、岐阜県交響楽団を愛してやまない会場の皆さんに届け

るのだ。

かくして幸せで感動的な結末を迎えられた私。これもひとえに岐阜県交響楽団の皆さんのお蔭と合唱団一同感謝しています。ありがとうございました。

そして、岐響メモリアル合唱団の皆さん！最後まで頑張つて良かったね！ブラヴォー！



『マラー「復活」に参加させていただいて』

テノール 佐藤 茂さん

混声合唱が併で最後の詞章「Was du geschlagen zu Gott wird es dich tragen」と高らかに謳い終えた後、オーケストラのみのコーダが三十二小節、時間にして約一分程。

私の裡では、ほんの一分という短い時間の中で様々な想いが、めまぐるしく錯綜していました。まるで走馬燈のように。この半年間の練習のことだけではありません。そして

月並みなことですが、いつしか涙が頬をつたっていました。

春先、岐響の事務局から一通の封書が届きました。今度はどんな案内かしらと。

実は私、十年来、次の岐阜県交響楽団の六十周年記念演奏会ではどの様な曲目をお演りになるのだろうかと思ひながら、座席で聴かせて頂きながら、演奏の間中涙が流れて仕方がありませんでした。

昔少しだけお世話になった団長先生の「長良川」や、尊敬する知人の作曲家藤掛さんの交響曲「岐阜」を再び聴かせていただいたこととの喜びなのでしょう。その前の四十周年記念の交響曲「岐阜」の初演前日には、当時水道山にあった練習場でのリハーサルを部外者なのに、ただひとり聴かせてもいただきました。

届けられた手紙を開封してみますと、マラー二番「復活」の合唱に参加しませんか、とありました。まさか「復活」を歌わせてもらえるなんて、古い先短い我が身故、このような機会を逃したらこの先二度とやって来ない。合唱初心者マークでも、例え口パクでも是非参加させて頂きたいと。

「復活」というキリスト教の重要な意味合いも、ドイツ語もまるで理解しない私なのですが、早速、何人かの友人達を巻き込むことにしました。まず手元にあるポケットスコアとヴァーカルスコアをひっぱり出してきて、自分の為の自家製パート練習用CDの制作を開始。在独十年の知人のピアノストや、ソプラノ歌手に頼み込んで詞章の朗読の録音をしてもらったり、ピアノ譜とフルスコアを脱めっしながらシンセサイザーを使つての録音。それを合唱参加に巻き込んだ友人達がヴォーカルスコアと併に事前配布等々、この間慌ただしくも実に愉しい準備の日々で

した。

始まった練習も、北野先生のお笑いを交えた楽しいものでした。しかし都合十回の練習回数は少なすぎました。周りの合唱のベテランの方々とはい違い、ずぶの素人の一回員としては辛い。とても辛い。せめて十一回はほしかった？

ただ残念なのは、勢い込んで参加させて頂いたにもかかわらず、合唱が歌い出す最初のppでのシの音程が最後の最後まで私は取れません。まさに「言うは易く、行うは難し」でしょうが「岐響の皆さん足を引つ張つてしまいました、ゴメンナサイ」の一言です。

あらためまして、この様な素晴らしい機会を与えて下さつた岐阜県交響楽団の皆さんには心よりお礼を申し上げます。毎回の定期演奏会も楽しみですが、次の七十周年記念演奏会も老骨に鞭打つて聴かせて頂く所存です。本当にありがとうございます。

### 『記念公演に出演して』

バス 清水 富士夫さん

岐阜県交響楽団の皆さん、創立六十周年おめでとうございます。現在の団員の皆さんだけではなく、元団員や今まで関わられた皆さんに心からお祝いを申し上げます。

ネットでもマラー二番の楽譜を入手し、合唱パートを見た時「これは難しいなあ」と思いました。理由は、何処の合唱団でも男性不足なのに、男声四部合唱部分があること。男声で低い方の音(特に低いシ)がかなりあり、技術を要することでした。幸い最近ばかりを弾きつつ音取りを取れるため、黒鍵ばかりでしたが、CDでは曲想が掴みにくく、実際に合唱練習を開始してイメージが湧い

てきた記憶があります。やはり難曲と言われる所以がここにあると思ひました。

練習回数は少なかったですが熱心な指導を頂き、初めて挑戦する難曲でしたが、本番は何とかオーケストラの皆さんの素晴らしい演奏についていたのではないかと思います。

第九を初めて歌つて合唱を始める方が増えてきました。岐阜県の合唱界にとつて多くの方が合唱を愛して頂けるのは有難いことです。ただ、第九を含めてオーケストラと共演する素晴らしい合唱曲はたくさんあります。今後、岐阜県交響楽団の皆さんも、今回を機会に、益々、合唱曲にも取り組んで頂けたら幸いに存じます。

私個人は昨年三月に追突事故によるムチウチで左手が痺れ、趣味のチェロを辞めようか迷つていたのですが、「復活」を唄つて勇氣が湧き、皮肉にも本年三月に「運命」に挑戦します。

### 記念事業を振り返って

岐響理事・団員が、記念事業を振り返ります。

『創立六十周年記念事業を終えて』岐響運営委員として、

岐響運営委員 森田 順子

岐阜県交響楽団には、もうひとつの交響楽団があります！

公益社団法人である岐阜県交響楽団では、理事会が運営にあたっています。理事会では、岐阜県を代表する企業のトップの方々三十名ほどが、実に活発な意見を交わしています。その様子はさながら、岡本太右衛門理事長が指揮者、運営委員長も務める辻正副理事長がコンサートマスターといった感じですよ。

岡本理事長が指揮棒を頭上にあげれば、すかさず、辻副理事長がコンサートマスターとして、各理事の発言(音)のハーモニーを語る。テンポや曲想が少し進みがちになれば、神原光夫副理事長が、楽団の現状を把握するステージマネージャーとしての確に押さえを効かせる。会議全体がまさにオーケストラのようですよ。運営委員を務めさせて頂いてる私は、皆の演奏になんとかついでいこうとしているだけです。

「六十周年記念公演」の方向性についても、熱を帯びた理事会が開かれたことは言うまでもありません。六十周年のステージは本当に素晴らしい。観客全員の魂をゆさぶる、会場を感動に包み込んだ。これからも団員皆のモチベーションを高めるため、もうひとつの交響楽団も頑張っていきたいものです。



『私と岐響』

岐阜県交響楽団理事 森 益男  
(運営副委員長)

今回岐響六十周年を機にしての原稿依頼を受け、改めて「私にとって岐響とは」と考えってみました。

想い起せば三十年前、岐阜青年会議所が企画した中国杭州市との文化交流事業に参加して頂いたことを皮切りに、その後も単発的に岐響との交流は続きましたが、何よりも私にとつての最大の思い出は、創立五十五周年記念のウイーン公演でしょう。ご縁がありその前年に運営委員会に所属することになった私は、五十五周年記念事業としてウイーン楽友協会黄金の間での公演の計画を知ります。そして先遣隊としてウイーンを訪れ、大使館や日本人学校、マイドリング区長等の打ち合わせや根回し、そして打ち上げ会場の調査まで市内を駆け回るうち、当初、心の隅に残っていた公演実現への不安は消え、絶対に成功させようという気持ち湧きあがってきたことを今も鮮明に思い出します。多くの方々の暖かいご支援と何よりも楽団員各々の真剣な努力の結果、公演は大成功で、私も達成感と共に大きな感動で胸が一杯になりましたが、新たにもう一つの感情が湧きあがってきました。

それは、私が今までオーケストラの魅力に對して一面的な見方しかしていなかったのではないかと、例えば複製画や記録映画を見るようにDVD等を見ていて本物を見ていなかったのではないかと、ということでした。かなり身置員は承知ですが、それ程感動し、岐響への存在や見方が大きく変わった出来事でした。

その後「ぎふの絆をつくる第九合唱演奏会」「六十周年記念演奏会」と岐響の可能性は大きく発展を続けているように感じています。これからも岐阜にオーケストラが存在する喜びを感じながら、以前よりは少しだけ厳しい目で岐響の成長を見ていきたいと思っています。

『創立六十周年記念 “市民のためのコンサート”』

岐阜県交響楽団理事 柳原 幸一

昭和二八年七月九日(株)鶴飼(旧社名は(株)鶴飼プレス工業所)は、創業しました。平成二五年は、創立六十周年を迎え、記念として三つの事業を計画しました。『会社』のため、『社員』のため、そして『社会』のための三本です。

①『会社』のため、は将来を見据えて、新工場を建設。三ヶ所に分かれていた工程を一ヶ所に集約する事での生産性向上を目指します。

②『社員』のため、は百六十名全員参加の慰安旅行実施。結果は七十五%の参加率でしたが今の時代風潮を考えると、まずまず以上だったと思います。

③『社会』のため、はいろいろな案が出ましたが、社会貢献したいという私の強い意向で「市民のためのコンサート」と題して、市民の皆さんに、素敵な音楽を、素晴らしい演奏で、無料開放で聴いていただくことにしました。『岐響』が創立六十周年であるということとは当然、年頭にありました。

平成二五年六月二三日は、梅雨の時期にも拘わらずコンサートの成功を約束してくれるのかなような快晴。会場の各務原市民会

館は千名近くの市民で一杯になりました。期待通りの素晴らしい音楽会でした。何より嬉しかったのは、出口で多くの市民の皆様から「よかったよ」「楽しかったよ」と声を掛けて頂いたこと。『岐響』のメンバーのお蔭です。心から感謝申し上げます。創立が同年の『岐響』と鶴飼。これからも、共に益々発展して行くことを願って止みません。今後とも、どうぞ宜しくお願い致します。

『創立六十周年を終えて』 マエストロ小松一彦先生の一周忌に寄せて！ 感謝  
副理事長(事務局長) 神原 光夫

岐響創立六十周年記念「復活」の公演では、「三千人の第九」合唱大成功の熱血漢井村誠貴先生に指揮を引き受けていただき、ウイーン公演以来のスタンディングオベーションの「復活」となり、ご支援いただき皆様方によつて立派に終えることができました。すべてに感謝です。誠にありがとうございました。

創立六十周年までを振り返るとき、私たちがここまで成長できたのは、今は亡き小松一彦先生の存在を忘れることができません。名誉指揮者小松一彦先生は、昨年三月三〇日二時五三分永眠されました。(享年六五)一周忌を目前にして、故人の生前を偲びご冥福をお祈りします。

小松一彦先生のご逝去！このとんでもない知らせで私たちは自己の耳と目を疑いました。

小松先生には岐響が昭和六〇年「ファミリーコンサート」で客演指揮者をお願いして以来、平成二二年五月の創立五十五周年記念「ウイーン公演」(ウイーン楽友協会ホー

ル)まで、二十五年の長きに渡って岐響と関わって頂きました。

「決して忘れ得ない二大周年記念公演！」それは、平成十五年十一月、岐響創立五十周年記念「サントリイ公演」、そして岐響創立五十五周年記念「ウイーン公演」です。小松一彦先生は、岐響を世界一のウイーン楽友協会まで引っ張っていきける数少ない最高の指揮者でした。

それは、決して妥協を許さない、そしてできない箇所はあとで残してまでも徹底して指導する。また、ソリストの場合でも別にレッスンを加えることも多々ありました。どんなステージでもその力の百二十%まで要求されました。本番前の最終リハーサルでも予定の時間を過ぎてはなかなか終わりません。サントリイホールの有名なステージ「ジマネジャー」に、「指揮者の言うとおりにしないと本番うまいかないよ！」と言われて時を待った記憶が鮮明に蘇ります。指揮者は帝王なのです。ですから、小松先生の演奏会はそのステージも気を抜かない緊張感のある演奏になったと思います。その実績から世界の檜舞台であるウイーン公演は、小松先生無しでは不可能と思っていましたので、引き受けて頂いたときは嬉しかったです。この六十年間、主な演奏会は、名誉指揮者小松先生に指揮をお願いして好評を博してきました。

その小松先生が岐響とウイーンへ出発の成田空港へ右手に包帯を巻き肩から釣って来られ、どうされたのか一瞬不安になり驚いていました。送りに来られた奥様は私に「すみません。スキーで転び右手首を負傷しており、着替えなど現地です都合の時がある

ル)まで、二十五年の長きに渡って岐響と関わって頂きました。

と思いますが、手伝ってやってください。」と言われました。そんな優しい奥様に見送られ、片手の指揮者小松先生はウィーン楽友協会「黄金ホール」での満員の聴衆からスタンディングオベーションの拍手喝采を浴びたのです。さすがの小松先生でした。しかし、帰国後の暮れに日本の合唱団を連れて同じウィーンのシュテファン教会でのコンサートで指揮をされたのが活動の最後になるとは。その後、これまでの無理な活動がたたり、血液の病で入院。奥様が自身のキリスト教へ洗礼の勧誘をされ、必死の看病によっても治らず、そのうちに奥様が脳梗塞で倒れられ、車椅子の不自由な体でも小松先生の看病を続けておられたのです。

私は、葬儀のご案内をいただき、岐響を代表して西宮の教会での告別式に参列して、車椅子の奥様にお会いできました。祭壇に横たわる英雄マエストロの棺に合掌し「小松先生、長い間本当にありがとうございました。棺の先生に向かって、感謝とともに」と長く生きていてほしかった無念さもあり涙が溢れて止まりませんでした。

生前これまでの小松先生の徹しいご指導を、岐響のバイブルとして永遠に忘れないものとしていきたいと思えます。

浅野 順一

「復活は大変な曲だ」と言われましたが、復活を知らない私は「難しい曲なんです」と気楽な感想を返しました。団員の中にはこんな人間もいるのです。確かに音楽的にも大変難しい曲です。しかし私に向けて言われた意味は少々違いました。合唱団三百人、

ティンパニー二組、ハープ二台、管楽器、吹奏器たくさん。要は過去やつたことのない四百名超の大編成を、通常百名に満たないオーケストラを乗せている舞台に乗せろ、という指示が含まれていました。確かにそれは、私が仰せつかつている係りの役目です。ありがたくない真実を知ったからには、頑張るしかありません。しかし「実は舞台の大きさを正確に表現した図面が無い」など、演奏会当日を迎えるまで驚きの連続です。さらに指揮者からの指示も日を追うごとに変わります。最終の指示が来たのは十一月七日でした。先生も如何により音楽を作るか、悩んだ証拠でしょう。私も少しは悩みました。「弦楽器全員をこの隙間に入れるには、ダイエツトしてもうしかなない」「管楽器の人には、空中を歩いていただく」図面を引いていて、本気で考えました。苦勞の甲斐あって、全員が舞台に乗れた時に大きな満足感を得て、演奏は美はよく覚えていないのです。今回は是非、この感動を演奏で味わいたいと思えます。

「記念事業を終えて」

清 信

今回の六十周年事業、ひとつのキャッチフレーズがついていた。「岐響、あなたのおかげで六十年。みんなの夢、かなえます！」

企画当初から携わった人間として、今回の六十周年事業にひとつだけ「私の夢」があった。それは、「記念演奏会でのマーラー交響曲第二番『復活』において、岐響に対しお客さまから過去最高の拍手をいただくこと」。

十一月十日、それはかなった。井村先生揮

身のタクトが振り下ろされ、最後の変奏長調の和音が会場に鳴り響いた直後、「ブラヴォー」の声がいくつもあがった。そして今までにない大きな拍手。すごうれしかった。

この体験は、団員はもちろん、指揮者やリスト、合唱団の皆さま、理事の皆さま、裏方の皆さま、数多くの方々のおかげだ。本当にありがとうございます。

\* \* \*

……あれから三ヶ月、今この原稿を書いていて思う。「あれは区切りのひとつだったな」と。あのときは自分の演奏に満足していた。でも今は違う。「もっといい演奏をしたい。」「もっともっとと音楽を演奏したい。」「もっともっとと音楽のもつ力を皆と表現し共有していきたい。」

夢は広がり、続いていく。四十歳を過ぎた自分に、音楽を通じて成長できる時間がなるとか作れるうちは、演奏を続けていきたい。

そして岐響の次の夢は？それは自分の下の世代が作っていくてくれるはずだ。いや作ってほしい。『復活』の演奏会は本当に良かった。でも岐響はあんなもんじやない。音楽はあんなもんじやない。

次の区切り(六十五周年？七十周年？)、さらに大きな夢をかなえることができますように。

「六十周年記念事業を終えて」

藤澤 克彦

六十周年記念事業の記念公演、マーラーの交響曲第二番『復活』というとても壮大なスケールの楽曲に取り組みました。今回は運営面のお手伝いをさせていただいたので、

日頃気付くことのない大変さを感じることができました。合唱練習計画、練習場の確保、オーケストラとの合同練習、当日の運営計画、などなど…。やらなければならぬことは非常に多く、たくさんの方々の力を費やしました。また、ステージ設置に関わっては、百年さんにいろいろアイディアを出していたとき、特注のイスまで作っていただきました。

今回の記念公演、本当にたくさんの方々の協力があって、演奏することができました。私たちが演奏することができる裏には、たくさんの方々の協力があることを忘れてはいけません。そんなことを改めて感じた、今回の記念事業でした。



「合唱団との練習風景(羽島市文化センターにて)」



## 岐響60周年記念事業～感謝公演～



今年60周年の節目を迎え、これまで支えてくださった岐阜県の皆様に感謝の気持ちを伝えたいという思いから、「感謝公演」として演奏活動を行ってまいりました。これまで行ったことのない市町村で公演し、たくさんの方に岐響を知っていただくと共にクラシック音楽に親しんでいただけることを願い活動しております。12月に行った2公演の様子を紹介します。

### 美濃加茂市 富加町組合立双葉中学校公演(タウンホールとみか)



指揮者コーナーでは、3人の生徒が上手に指揮を振ってくれました!

中学校の芸術鑑賞会として、演奏会を開きました。ベートーヴェンの「運命」など馴染みのある鑑賞曲を演奏したり、合唱曲と一緒に演奏したりと、盛りだくさんの内容でした。皆さん、楽しんで参加してくださいました。



### 羽島郡笠松町公演(笠松町中央公民館)



クリスマスが近いので、指揮者の田中陽治さんもサンタさんに変身しています。



たくさんの地域の方に来ていただき、にぎやかな演奏会になりました。



笠松町のマスコットキャラクターが登場! かわいく指揮を振ってくれました。

今後も、岐阜県各地の皆様音楽を聴いていただけるよう、さまざまな演奏活動を行っていききたいと思います。